

第Ⅱ章 地産地消に関する現状

1 農産物の生産状況と農家人口の推移

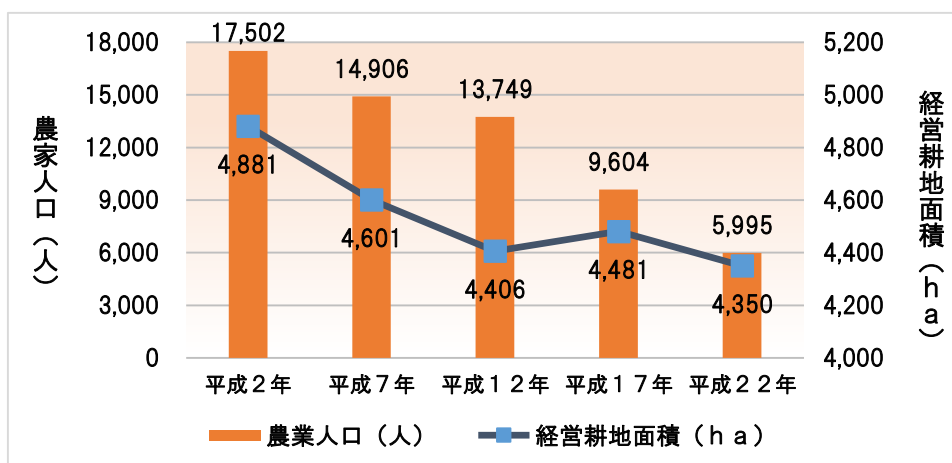
白山市では稲作を中心とした農業が営まれており、その他にも市全域でトマト、だいこん、きゅうり、大豆などをはじめとする多くの農産物が生産されています。一方、生産体制では農家人口が年々減少傾向となっています。

■ 白山市における主な農産物の生産量推移（t） ■

作物名	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年
米	19,100	18,600	19,000	18,900	19,200
大豆	1,011	979	822	968	1,060
麦	93	100	107	341	591
そば	30	19	25	20	25
メロン	28	21	16	11	12
きゅうり	198	176	127	126	171
だいこん	315	262	223	195	197
かぼちゃ	4	2	5	3	2
トマト	607	528	398	427	432
にんじん	18	25	31	42	45
ナス	29	21	25	30	36
ブロッコリー	319	93	32	83	45
ハウレンソウ	8	10	4	1	1
まるいも	6	2	8	8	9
白山ねぎ	-	6	22	35	38
日本なし	129	142	85	489	480

資料：白山市統計書

■ 白山市における農家人口と経営耕地面積の推移 ■



資料：農林業センサス

2 林産物の生産状況と林家数の推移

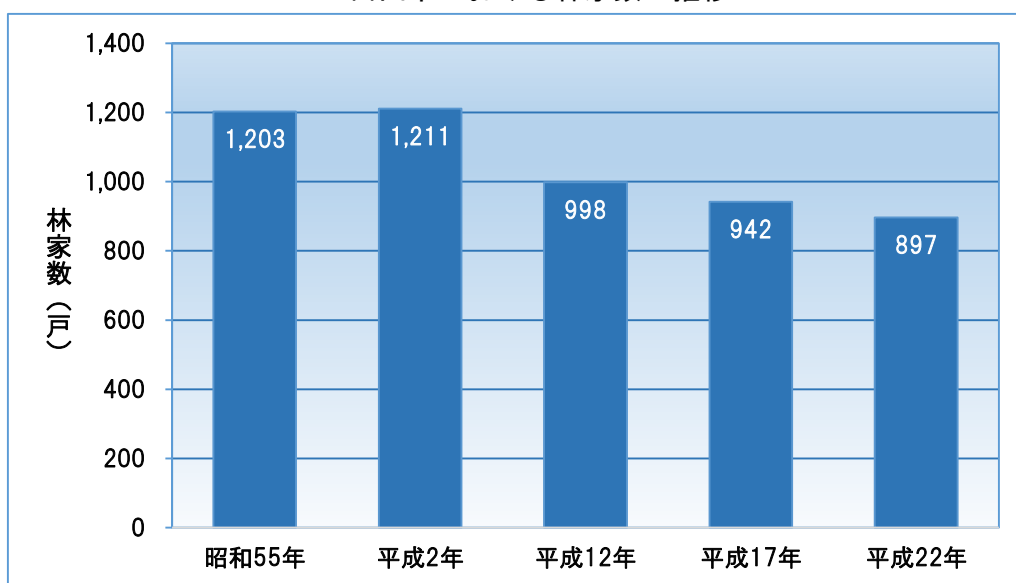
白山市では、キノコ類が主な林産物として生産されています。林家数は年々減少傾向となっています。

■ 白山市における林産物の生産量の推移（t） ■

	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年
生しいたけ	109.6	125.8	129.4	146.9	133.2
なめこ	43.2	43.1	43.9	40.9	40.8
えのきたけ	72.0	70.0	35.0	-	生産者廃業
ひらたけ	4.0	3.8	2.5	2.9	3.3
まいたけ	22.0	22.0	2.8	3.6	13.6
たけのこ	16.4	8.4	5.5	2.7	8.9
その他	0.8	0.9	0.8	0.9	1.1

資料：石川県特用林産物需給動向

■ 白山市における林家数の推移 ■



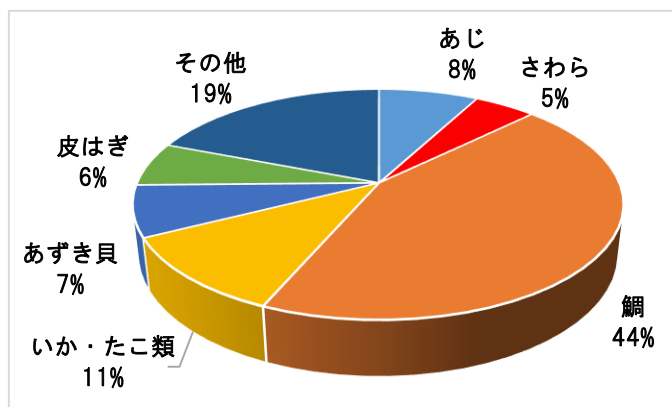
資料：農林業センサス
昭和 60 年、平成 7 年は林家数の調査はされていない

3 漁獲状況と稚魚放流数の推移

白山市の漁業の漁獲高は、美川漁港での水揚げが主ですが、平成24年には、それまで多く漁獲されていたアジ・サワラ類の漁獲量が減少したことにより、鯛の漁獲割合が大きくなっています。

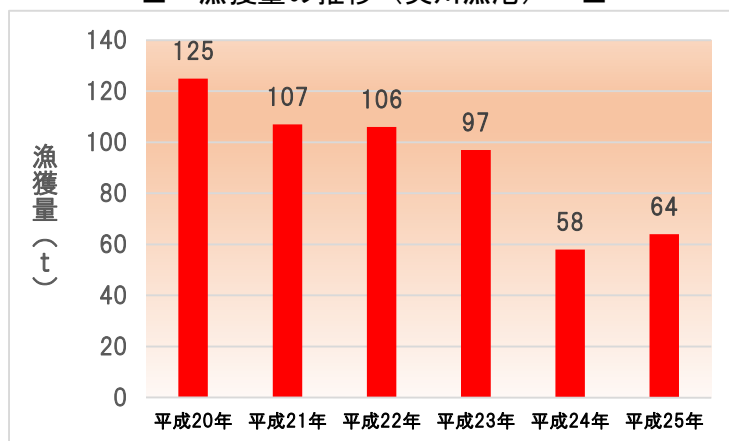
漁業経営体（漁業に従事する世帯または事業所）についても、農業や林業と同様に経営体（担い手）が減少傾向となっています。

■ 魚種別漁獲量の割合（美川漁港） ■



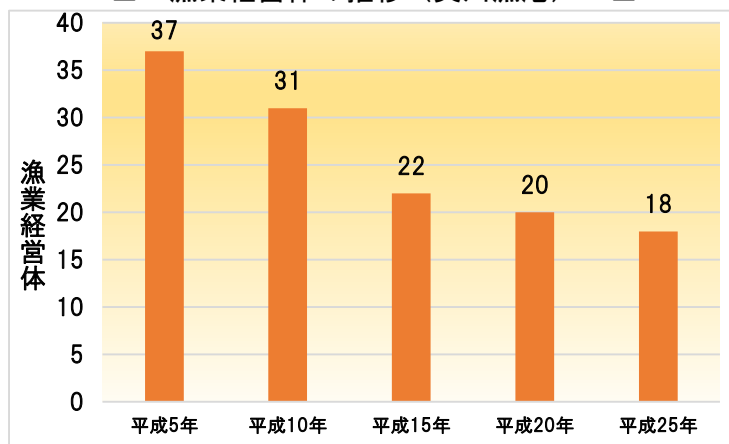
資料：港の港勢調査

■ 漁獲量の推移（美川漁港） ■



資料：港の港勢調査

■ 漁業経営体の推移（美川漁港） ■

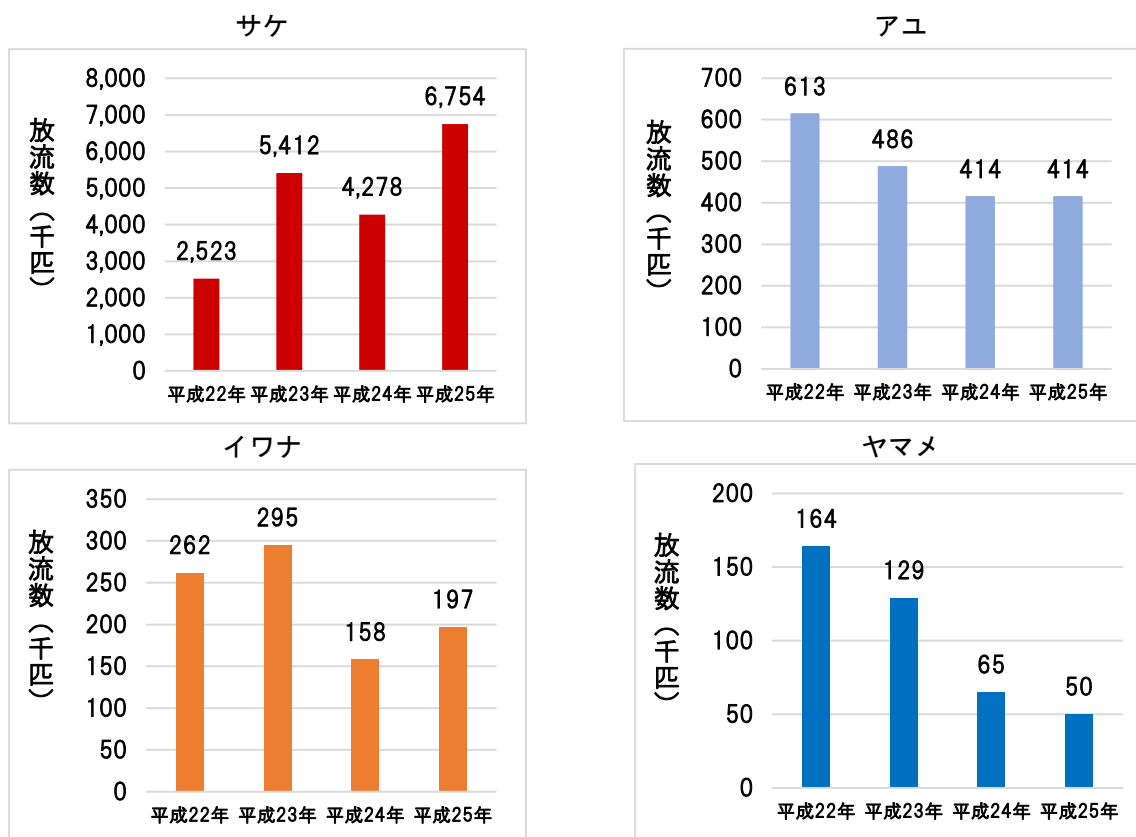


資料：漁業センサス

内水面漁業については、水産資源の確保および維持のため、また、生態系の保護や生物多様性の観点より、稚魚の放流事業などが継続的に実施されています。

さらに、放流事業は小中学生や幼稚園児の体験学習の場としても有効な役割を果たしており、食育活動にも大きくかかわる事業と言えます。

■ 内水面漁業における魚種別放流数の推移 ■



資料：林業水産課調べ

毎年の放流事業の中で、サケについては遡上数の調査が行われています。放流数に対する遡上数は少ないものの、一定の遡上が確認されています。

■ サケの遡上数の推移 ■



資料：白山市統計書



サケの稚魚を放流する児童たち（美川地域）



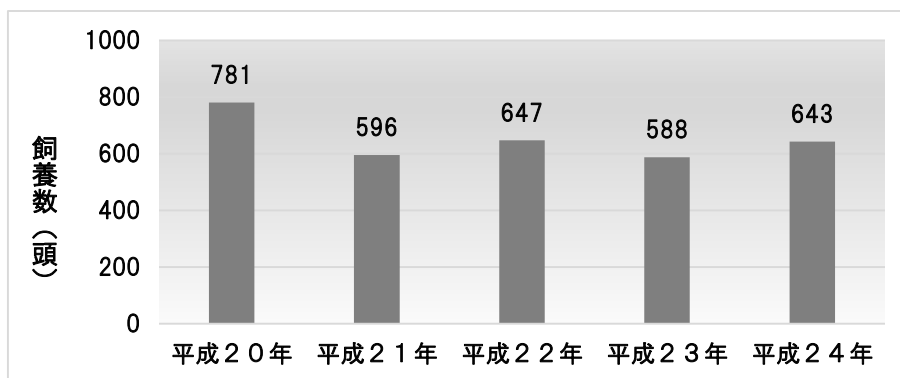
アユの稚魚を放流する児童たち（白山ろく地域）

4 畜産状況と畜産農家数の推移

白山市における主な畜産業は、「乳用牛」「採卵鶏」であり、畜産農家数は減少傾向、飼養数は近年わずかに増加しています。

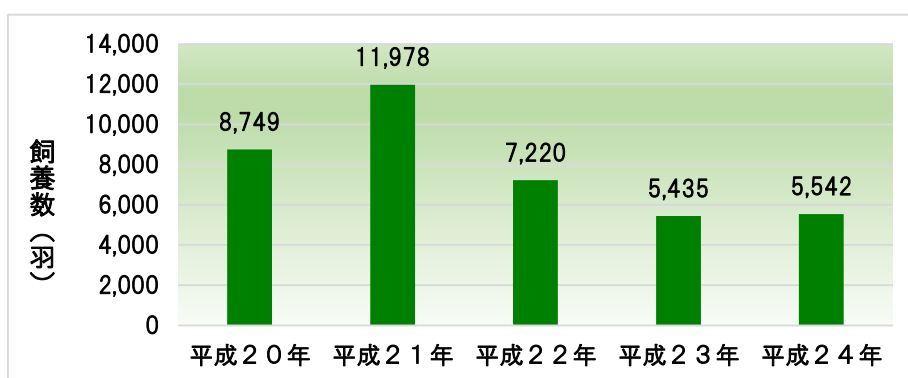
また、白山市内では、「肉用牛」の畜産に取り組む畜産農家も存在しています。

■ 乳用牛の飼養数の推移 ■



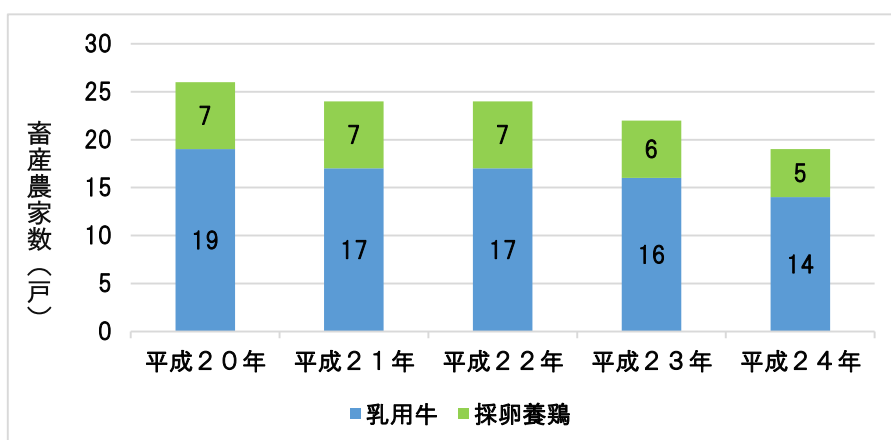
資料：白山市統計書

■ 採卵鶏の飼養数の推移 ■



資料：白山市統計書

■ 畜産農家数の推移 ■



資料：白山市統計書

5 市民意識調査の結果

地産地消推進計画（第2次）を策定するにあたり、消費者・生産者・飲食店および食品関連事業者を対象に、平成21年に実施したものとほぼ同じ内容でアンケート調査を実施しました。

アンケート調査では、回答者（無作為抽出）が全く同じということではないため、単純に比較することはできませんが、消費者の地産地消に対する関心が増していることがうかがえます。また、今回追加した項目により、生産者の6次産業化への関心の高さを見ることができます。飲食店・食品関連事業者については、白山市内産の食材使用率が前回より増えています。

●消費者アンケート

- 購入食材の産地については、引き続き国内産が最重要視されており、県内産と白山市産についても、7割近くの方が「気にする」と回答しています。
- 直売所の利用割合は増していますが、「価格や品質が同じなら地元産にこだわる必要がない」との意見も前回同様多く挙げられています。
- 地産地消を推進するためには、スーパーなどの量販店での取扱量を増やす必要があるとの回答が多く寄せられています。いつ・どこで・どのような市内産農林水産物入手できるのか、時節に応じた情報も求められています。

●生産者アンケート

- 地産地消の取り組みとして、農協や漁協、道の駅が設けている直売所に登録・出荷している、あるいは自営の直売所を設けているとの回答が多く見られます。
- さらに地産地消を推進していくためには、農林水産物のブランド化や、加工による付加価値化（6次産業化）が必要だという意見が多く挙げられています。
- 6次産業化に取り組んでいくためには、担い手を確保し、生産量を増やしていく必要があります。

●飲食店・食品関連事業者アンケート

- 地元産農林水産物に期待されているのは、旬が感じられる新鮮な美味しさですが、価格を重要視しているとの回答が多く挙げられているのは前回同様です。
- 一方で、ある程度までなら他に比べて地元農林水産物が割高でも購入するという回答も増えています。
- 白山市産農林水産物が使用されている割合は増えていますが、農林水産物の情報や仕入先の情報が不足しているとの意見も見られます。